

コロナ・インフルの同時検査キット増産要請 厚労省

2022年10月12日 日本経済新聞

厚生労働省が新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの感染を同時に判定できる抗原検査キットについて、スイスの製薬大手ロシュなどに増産を要請した。要請を受け、各社が対応を進めており、今冬に3500万～4000万回分を確保できる見通しだ。今後予想されるコロナとインフルの同時流行に備える。



厚労省から製造販売の承認を得ている国内外のメーカー全社に要請した。ロシュのほか、国内メーカーのデンカやH.U.グループホールディングスなどの製品が承認されている。増産する抗原検査キットは短時間でコロナとインフル双方の感染の有無を調べられる。鼻の中に綿棒を入れて粘膜部分のぬぐい液を採取するなどし、処理液と混ぜてテストプレートに数滴たらす。15分ほど待てば、判定結果を示す線が表示され、目視で感染確認できる。自己負担ゼロで受けられる。

今冬に予測される同時流行の際に医療機関で活用してもらおう。重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある人、子どもらに受診を促し、医師が抗原検査キットを用いて診断する。現在、自宅で活用できるのはコロナのみを対象に感染の有無を調べる抗原検査キットに限られる。薬局やインターネットで購入できる。**コロナとインフルの同時判定キットは「医療用」で、医療機関での使用に限定される。**

政府の規制改革推進会議はインフル専用や同時判定の検査キットも、薬局やネットでの販売を可能にするよう求めている。厚労省や医療界は慎重で、国内外で検査キットの生産能力に限りがあることから、医療機関への流通が滞ることを懸念している。

スペインやオーストラリアは同時判定キットを薬局で販売できるようにしている。インフルは国内で毎年1000万人ほどが感染すると推定されてきた。コロナ対策で流行はしていないが、専門家らは今冬に感染が拡大する可能性が高いと予測している。コロナも7月以降の感染者が1200万人を超えており、流行の波が重なれば検査需要は一気に高まることが予想される。